

語学教育研究所研究会・セミナー報告

(1) 「教育実践のためのメディアの活用」(情報教育研究所と共同主催)

平成26年6月28日(土) 9:00~15:00 D棟112教室 マルチリンガル教室

講師:永嶋 昌博氏(前・東京都北区立桐ヶ岡中学校校長)

語学教育研究所ならびに情報教育研究所は、本学において早期に設立された機関であるが、今回初めて共同研究会を開催した。というのも、昨今の情報機器の著しい進化により、より簡便に、またより多様な方法で語学教育への利用が可能になったからである。両研究所が互いの研究活動ならびに教育活動の活性化を企図したものである。実際に情報機器を利用し、中等教育の現場で実践した永嶋昌弘氏を講師に迎えた。両研究所員に加え、外部から高校教員、他大学の研究者、教育関係者ならびに関連する出版関係者など15名が参加した。

午前中の部では、まず、講師の永嶋氏が、iPadとマルチリンガル教室に設置された提示装置を連動させ、通常授業の様子、海外の生徒ならびに教員とのコミュニケーション活動など授業実践活動の映像記録を紹介しながら、情報機器の授業運用方法、授業内容や授業目標などの説明があった。その後、質疑応答も含め、中学校や高等学校における情報教育や英語教育の状況や課題、また中学・高校・大学へとつながる教育における連携、今後の教育指導のあり方等も含めた幅広い議論となった。

午後の部に移り、実際の教育実践活動に用いた具体例を永嶋氏が、機器を用いて紹介し、参加者が実際に使用してみるなどの体験会を行った。さらに、大学での英語教育や情報教育に反映するにはどのような改善点や可能性が考えられるか、現在、検討されている新しい教授方法や方向性など、教育実践活動に関わる深い議論が交わされ、意義深い研究会となった。

(2) 「英語教育に関する実践例報告—英語授業における情報活用」(「第2回情報教育研究会 in 江戸川」分科会)

平成26年8月2日(土) 13:00~17:00 A棟8階 第三会議室

講師:松本 靖彦(東京理科大学理工学部 教授)

司会:松村 豊子(江戸川大学情報文化学科 教授)

対象:本学教員, 高校教員

2014年8月2日(土)に本学A棟8F第三会議室で開催された「第2回情報教育研究会 in 江戸川大学」の分科会として東京理科大学で英語教育を担当している松本氏を講師に迎え、情報器機を活用した英語教育の実践例を紹介していただいた。情報器機を活用したライティングのきめ細かな指導が聴覚障害の学生にも有用であるとの結論が印象的だった。参加者は近在の高校で英語科目をご担当の教諭4名と本学及び他大学で英語教育に携わっている教員4名だったが、質疑応答は90分の持ち時間をかなり超えるほど活発だった。

(3) 第1回「英語教育研究会 in 江戸川大学」(情報文化学科主催)

平成26年10月17日(金) 13:30~17:30 A棟8階 第一会議室

講師:山本 史郎氏(東京大学総合文化学科教授)

基調講演タイトル 東大で読む『赤毛のアン』：英語教育の将来的方向性

研究発表(1) 松村 豊子 (情報文化学科長, 本学教授)

研究発表(2) 古里 靖彦 (本学教授), 神部 順子 (本学教授)

参加者：高校教員【3名】、企業【2名】、他大学教員【1名】、他大学大学院生【1名】本学教職員【11名】、本学学生【30名】

次世代を担う若者に、コミュニケーション能力と英語力を育成するための教育の実現が課題となっている昨今の状況を鑑み、江戸川大学情報文化学科では近隣の教育に関わる方々を迎え、これらの課題について共に考えるために研究会（名称：英語教育研究会 in 江戸川大学）を立ち上げた。以下はその報告である。

【実施内容】

○基調講演：「東大で読む『赤毛のアン』：英語教育の将来的方向性」

講師：山本 史郎 (東京大学総合文化研究科 教授)

東京大学教養学部における英語教育の流れを *Universe* 他の共通テキスト制作の裏話を交えながら、伝統的な「実用英語 vs 教養英語」の二項対立が「技能訓練」と「知能教育」に変容していることを解説。4技能 (LSWR) を伸ばす技能訓練に加えて外国文化に対する理解を深め、日本語力を高め、解釈と鑑賞をとおして頭脳と心を鍛える必要性を力説する。その実践例の1つとして『赤毛のアン』の日本語訳と映画版を取り上げ、村岡花子による日本語訳とご自身によるものとを比較検証。感性豊かな精緻な読みに感動し、アンの世界の魅力を再発見した講話であった。



○研究発表(1)：「国際コミュニケーションに対する大学での取り組み」

講師：松村 豊子 (江戸川大学情報文化学科 教授)

江戸川大学情報文化学科における国際コミュニケーションに関する取り組みをカリキュラムと教育内容の2点から紹介。カリキュラム構成の特徴として、(1)4技能の習得、(2)英語文化に対する専門的理解、(3)英語以外の科目（特にロジカルシンキング、プレゼンテーション、キャリア教育）との連動性、(4)異文化体験を挙げ、常に「新しいこと」にチャレンジし、自己の体験を論理的に豊かに表現できる学生の育成を目指していることを伝える。

○研究発表(2)：「江戸川大学情報文化学科：教育の概要」

講師：古里 靖彦 (江戸川大学情報文化学科 教授)

講師：神部 順子 (江戸川大学情報文化学科 教授)

江戸川大学情報文化学科の教育内容を(1)基礎学力の涵養、(2)専門的学力の育成、(3)表現力の訓練、(4)実践力の体得の4点から紹介。コンピュータ組立演習、日本文化のデジタル表現、デジタル新聞「学生瓦版」の制作、日本及び世界の伝統文化・芸術の観賞、インターンシップ等々の実践活動をとおして、学生が入学から卒業まで「社会人になるための知識・技術・人間力」をどのように習得するかを説く。

(松村豊子 記)

(4) 第1回「グローバルセミナー」—— 海外で仕事をするということ ——

(協力：スポーツビジネス研究所，駒木学習センター)

平成27年1月7日(水) 16:30~18:00 D棟351教室

講師：堀江 慎吾氏(ニューヨーク・ヤンキース球団通訳)

パネリスト：広岡 勲(本学准教授，読売巨人軍 球団代表付アドバイザー)

海老澤邦江(語学教育研究所長，本学教授)

総合司会：松村 豊子(情報文化学科長，本学教授)



広岡勲先生が今年度から語学教育研究所のメンバーとして加わった。広岡先生は、2014年1月には、現在ニューヨーク・ヤンキースで活躍している田中将大投手を本学に招聘しシンポジウムを企画・運営された。その縁から、今回は、田中投手の通訳を担当している堀江慎吾氏を招聘することができた。堀江氏は、慶応義塾大学を卒業し、ブリジストンを経てNHKに勤務、NHKでの仕事を通じてニューヨーク・ヤンキース球団通訳へと転身した。

スポーツビジネス研究所ならびに駒木学習センターの協力を得て、当日は主催者側の予想をはるかに上回る、約170名(学生100名，近隣住民や報道関係者70名)来場者があった。初めに基調講演として堀江氏が、ニューヨーク・ヤンキースの通訳としての体験や通訳の仕事の内実について講話を行った。その後、トークセッションという形式で、パネリストの広岡・海老澤を加えて、田中投手のアメリカでの生活、異文化での仕事の苦勞、通訳という仕事の特質など多岐に渡った内容でトークを行い、それについてのフロアからの質問に対する応答や交流があり盛会の内に終了した。

語学学習という視点からではなく、言語を使った職業という新しい視点から語学の必要性や可能性を提示できた。また、本学学生たちの語学学習の動機づけ、海外への視野の拡大といった、当初のセミナーの目標も達成できた。来場者には、セミナーに関するアンケート用紙を配布し、多数の回答を得ている。セミナーの詳しい内容ならびにアンケートの集計と分析については、次号の『Language Education』14号に掲載する予定である。

言語を媒介にして、人生の新たな地平が開けるようなトピックやテーマで次年度もセミナーを開催する予定である。